

フランス共和国とイスラーム ～共生は可能か～

第二次大戦後、フランスは大量の移民労働者を北アフリカから導入したが、やがて「移民第二世代」が登場し、イスラームのスカーフを着用して登校する生徒が現れると、政教分離の原則などに反するとして、しだいに問題視されるようになった。学校でのスカーフの着用が、大きな論争を呼ぶのはなぜか。果たして政教分離や男女平等などの理念に反するからなのか。あるいは、ムスリム系マイノリティに対する人種差別として捉えるべきなのか。この企画では、ジェローム・オスト監督のドキュメンタリー『スカーフ論争～隠れたレイシズム』を上映するとともに、出演者の一人であるピエール・テヴァニアン氏を迎え、スカーフ問題の所在について考える。



映画上映：『スカーフ論争～隠れたレイシズム』
(ジェローム・オスト監督／フランス／2004／カラー／74分／日本語字幕付)

講演： Pierre TEVANIAN

哲学者、反差別団体「言葉に要注意」共同代表

※講演はフランス語で行われます。(逐次通訳有)



日時： 5月7日(火)

17:00-20:00

会場： 志高館 SK101教室

共催： 科学研究費助成事業『EUにおけるレイシズムの新展開と社会構造の比較研究』
(研究代表者： 菊池恵介)

来聴歓迎
予約不要

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp